



Via Latina 22

2023年9～10月 324号

総本部よりのお知らせーマリア会

トーゴでの初誓願式と終生誓願式	1
2023年の HORIZONS プログラム	2
養成担当者と霊生部長の会議 - ナイロビ (ケニア)	4
第36回総会：準備委員会の作業の立ち上げ	4
世界マリアニストの祈りの日	5
戦争犠牲達のための執りなしの祈り	6

トーゴでの初誓願式と終生誓願式

2023年8月15日火曜日、聖母マリアの被昇天の祝日に、トーゴ地区のマリア会員は、全マリアニスト家族とカラ教区の教会と共に、大きな喜びの中に2名の初誓願者と2名の終生誓願者を迎え入れました。この誓願式は、カラ Tchaloudeの良き牧者教会にてJacques Danka Longa司教が司式する荘厳なミサの中で行われました。

マリア会トーゴ地区、地区長Jonas Kpatcha師がPatrick Atoukou S. Bataka士とPaul Gno-Solim E. N'Dakpaze士の終生誓願、そしてFrançois Kouméabato Kabissa士とRobert Essotina Weleke士の初誓願を受け入れました。この結果、Togo地区のマリア会員は41名となります。

カラの司教はその説教の中で、誓願者に対し自分たちの決意に込められた意志を思い起させ、そのことが自分たちの修道会とトーゴ教会の信徒から求められているものだと強調し、同時に司教は彼らが勇気を持って教会とおとめマリアへの奉仕にキリストに倣って自己犠牲を捧げられるよう切望しました。



新しい誓願者とトーゴからのマリア会員たちに囲まれた
Jacques Danka Longa司教様

お祝いの食事がカラのシャミナード中学校で供され、全マリアニスト家族が出席しました。教区の修道者たち、両親、誓願者の家族のメンバーや友人たち、そしてカラ教区の信徒たちでした。



左より：Paul N'Dakpaze士，François Kabissa士，
Robert Weleke士とPatrick Bataka士

2023年の HORIZONS プログラム

6月30日から7月27日にかけて、継続養成のためのHorizonsプログラムがベリズ（スペイン）にて開催されました。参加者は13か国から30名（SM 22名とFMI 8名）で、他に4名のチーム調整役と通訳の人々でした。



**Horizonsプログラムの皆様、
マリアニスト家族の4つの枝のリーダーたちと共に
Barnezabalの家（ベリズ スペイン）にて**

プログラム内容は「聴く」というテーマをめぐって準備されました。プログラムは私たちの世界と教会に耳を傾けることから始まりました。そのねらいは、これら現況から私たちがどんな呼びかけを受け取り、私たちの創設者たちがその時代に与えた応答に学びながら、今日この呼びかけにどう応えることができるかを理解することでした。

サラゴサへの一日巡礼を行った後、次の1週間はマリアニスト家族からくる呼びかけに耳を傾けることに充てられました。この第二部には、4つの枝の世界のトップリーダーが出席しました。

これに続く5日間はフランスの創立の地の訪問に充てられ、参加者の皆さんから好評を得ました。最後に、修道生活と私たち自身の召命から来る呼びかけに耳を傾けることに他の1週間を充ててプログラムが終了しました。



**Horizonsプログラムの皆様、マドレーヌのマリアニスト共同体
の数名のメンバーと共に マドレーヌ小聖堂（ボルドー）にて**

加えて、2日間の黙想と、共同の祈りに十分な時間があり、また種々のお祝いとサン・セバスチャンへの訪問も行われました。

このプログラムは、参加者一人ひとりがマリアニスト共通の召命を新たにするのに助けとなるお恵みと出会いの機会でした。

養成担当者と霊生部長の会議 – ナイロビ（ケニア）

8月21日～27日の一週間、マリア会の現役養成担当者といくつかの行政単位の霊生部長の会議がナイロビ（ケニア）にて開催されました。

この会議は、ナイロビで8月15日から開催され10月28日まで続く新たな養成担当者の育成のためのナザレ・プログラムの一環として催されました。

ナザレ・プログラムの第1週に、一部の養成担当者と霊生部長がナザレの参加者と自分たちの経験を分かち合うためこのプログラムに合流しました。このグループはインド、東アフリカ、トーゴ、コートジボアール、USA、コロンビアとスペインから参加した17名のマリア会員から構成されており、加えてローマのシャミナード国際神学校から2名の養成担当者が参加していました。



ナザレ・プログラムの皆様，養成担当者と霊生部長たち，
Tina Campbell女子と共に

この週の目的は、養成の目標について考察すること、様々な養成モデルを紹介すること、そして総合的な養成の一環としての情緒的・性的な養成の重要性を示すことでした。講話者はマリア会Pablo Rambaud師とTina Campbell女史（信徒で、「未成年者と弱い立場におかれている成人の保護」のコンサルタント）でした。

意見交換の時間があり、その中で全員が自分たちの経験と養成に関することを分かち合うことが出来ました。日曜日、彼らはナイロビの学生修道者の共同体に招かれ、そこでミサを行い、食事を分かち合いました。

第36回総会：準備委員会の作業の立ち上げ

8月19日と20日、第36回マリア会総会のための準備委員がナイロビ（ケニア）に集まりました。

総長は7月にこの委員会（PrepCo）を編集委員会（RedCo）と共に任命しました。準備委員会はDennis Bautista士（USA管区）とKondwani Nalivata士（東アフリカ地区）そしてPablo Rambaud師（総本部）で構成されており、一方、編集委員会はTimothy Driscoll士（メリバ管区）とRogelio Núñez士（スペイン管区）で構成されています。



左より：Kondwani Nalivata士, Pablo Rambaud師, Dennis Bautista士,
Timothy Driscoll士とRogelio Núñez士

8月のこの2日間に、総会開催のために必要な準備を始めるために最初のPrepCo会議が行われました。RedCoと総長評議員会が一緒に行う他の会議は数週間後に開催され、次のステップと日程表を決めることになります。

私たちはこの2つの委員会の作業のためにすべての人の祈りのサポートをお願いします。

世界マリアニストの祈りの日



来る10月15日に、マリアニスト家族は世界マリアニスト祈りの日のためにルルドの聖母の洞窟（デイトン、オハイオ州、USA）に霊的に集まります。このルルドの聖母の洞窟はUSAのオハイオ州、デイトンのマウント・セント・ジョンの敷地にあります。1910年以来、この洞窟はマリアニスト家族、およびデイトンや近隣のカトリック共同体の信者たちを魅了し続けています。この聖地は今でもなお私たちの生活の中でおとめマリアの保護と変わる事のない現存の証しとなっています。

この時に、全世界のマリアニストが祈りで一体となり、あらゆる災難から私たちの世界を守ってくださるよう、そして全世界に平和をもたらしてくださるよう、ルルドの聖母に祈願します。

私たちは全共同体があらゆる可能な方法でこの機会を祝うようお勧めします。更なる情報について：www.marianist.org

ルルドの聖母マリア様、私たちのために取り次いでください！

戦争犠牲者達のための執りなしの祈り



いと高き神、あらゆる時代の主よ、あなたは愛によってこの世界を創造され、そして創造物へのあなたの祝福を絶え間なく注がれます。苦しみと死の大海を越え、暴力、不正義、および不当な利益への誘惑を超えて、あなたは父の優しい愛をもってあなたの息子と娘たちに同伴しておられます。

しかし、あなたのお恵みを軽んじ、あまりにも世俗的なあらゆることに夢中になる私たち人間は、あなたの平和と調和への勧告をしばしば忘れてきました。私たちは自分自身と自分の狭い興味だけに関心がありました。あなたと他者に対して無関心な私たちは、平和へのドアを閉めてしまいました。預言者ヨナがニネベについて言われるのを聞いたことは繰り返されました：人間の邪悪さは天にまで上ってきた（ヨナ 1・2参照）。私たちは清い手を天に上げず（1 テモテ2・8参照）、かえって、罪なき者の血の叫びが上がっている（創世記4・10参照）。ヨナ書では、ニネベの住民はあなたの預言者の声を聴き、悔い改めて救いを見出しました。主よ、私たちは今、人々の憎しみによる多くの犠牲者をあなたに委ねます。私たちもまたあなたの赦しを願い、悔い改めの恵みを懇願します。私たちは、彼らの兄弟姉妹である者たちの暴力の手によって地上の生命を縮められた人々をあなたの御手に委ねます；また、私たちは自分たちの兄弟姉妹に対してこのような害を加えた者たちのためにもあなたに祈ります。どうか彼らがあなたの赦しの力に心を打たれて悔い改めますように。アーメン。

教皇フランシスコ



福者シャミナードへの祈りの意向

私たちは、リンパ球白血病と診断された8才のハンナ・ジェーン(Hannah Jane)の治療のためマリアニスト家族に福者ギョーム・ヨセフ・シャミナードへの祈りのノベナをお願いします。USA、フィラデルフィア、マリアニスト共同体のStephen Glodek士からハンナのためこのノベナを要請されました。



第36回総会の準備（2024年7月）

最後の念押し

共同体や協働者からの提案は9月30日までとなっています（意見聴取テキストのリンクを参照）。このことへの配慮に対し共同体へ感謝します。皆さまを頼りにしています。有難う！

最近の総本部通信

- 計報：13号
- 9月8日：世界マリアニスト祈りの日ー2023年10月15日、マリアニスト家族
世界評議会から全マリアニスト家族に3ヶ国語で送付
- 9月11日：マリアニスト連帯基金（MSF）と2023年マリアニスト養成基金（MFF）、
財務局長、Michael McAward士から全財務補佐あてに3ヶ国語で送付

総本部日程

- 9月16日ー10月30日：霊生局長、Pablo Rambaud師がナイロビでのナザレ・プログラムに参加
- 9月21ー26日：総長André-Joseph Fétis師と教育局長、Maximin Magnan士がフランス、ボルドーのマドレーヌを訪問

メールアドレスの変更

全ての新しいメールアドレスは次の2023ー2024年国際名簿(78号)にて紹介されます。